

(シラバスNo.10)

科 目 名	教育方法学特論	科目コード	24P-B2	
		科目群名	専門科目 (B 群)	
	Advanced Seminar on Educational Methods	必修／選択	選択	
		教職	小・中・高	
担当教員	仲 久徳	単位数	2	

【実務内容（実務家教員の場合）】

該当しない

【授業概要】

本科目は、授業を中心とした教育実践研究の土台となる教育方法、学習、教育評価及び教材・授業設計の基礎的事項について学習科学をベースとした最近の動向を踏まえて学びなおすこと、教材・授業等の設計（演習）を通して教材・授業設計に必要な判断力、論理的な思考力、応用力の習得を目的とする。

授業は、担当教員の講義、受講者による発表、受講者及び担当教員とのディスカッションを通して進めていく。

なお、受講者数が多数の場合、【授業計画】の内容や順番が変更になる場合がある。詳細は、第1回授業時に説明する。

【授業の到達目標】

教育方法、学習、教育評価及び教材・授業設計の基礎的事項について学習科学をベースとした最近の動向を理解し、各自が設定した単元テーマに沿って「単元パッケージ」（単元指導計画、教材、測定・評価ツール等の開発）ができる。

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴>（毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください）

形態	実施	具体的に実施すること
講義	◎	基礎的事項についての講義
グループワーク・質疑	○	（受講者が多数の場合に実施）
演習	◎	単元テーマに基づく教材・授業等の設計（事前課題）
プレゼンテーション	◎	事前課題についての発表・討議
制作		
その他 （ ）		

【授業計画】

回	内 容
1	オリエンテーション
2	「単元テーマ」（発表・討議）
3	学習、教材・授業設計、教育評価に関する基礎的事項（講義）
4	「単元構想」（発表・討議）
5	目標設定及び評価規準・基準に関する基礎的事項（講義）
6	「目標及び評価規準・基準の設定」（発表・討議）
7	個別最適な学び・協働的学びと教材・授業の設計（講義）
8	「個別最適な学び、協働的学びを取り入れた教材・授業の設計」（発表・討議）
9	測定・評価ツールの開発（講義）
10	「測定・評価ツールの開発」（発表・討議）
11	「問い」のある授業の設計（講義）

12	「1 時間の授業の指導案の設計」（発表・討議）
13	授業研究とデザイン研究（講義）
14	「単元パッケージの開発」（発表・討議）
15	まとめ
試験	
【履修上にあたっての準備】 ・ 毎回、課題を提示するので予習・復習の時間をしっかり確保しておく。（参考までに、法令では、2 単位取得のためには 60 時間の予習・復習が必要と定められている。）	
【授業外学修（予習・復習）】 ・ 予習：毎回指示する事前課題に取り組む。 ・ 復習：授業時に指摘されたことに対して対応する。	
【評価方法】 ・ 毎回の課題提出または発表（45%）・科目修得試験（55%）	
【教科書】 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。	
【参考図書】 学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）及び総則編：文部科学省 その他については授業時に紹介する。	